

2021年度九州体育・保健体育ネットワーク研究会 ファイナル in 福岡 ポストコロナ、東京2020がもたらす体育・保健体育の現在

1 目的

九州各県の体育科・保健体育科教育に関わる小中高の学校関係者、教育委員会関係者、大学関係者によって構成される有志が、新学習指導要領への理解、体育学習や保健学習に関する授業力の向上、教育課程編成等体育科教育の充実に向けて、語り合う機会とし、九州から全国へ実践ベースの情報を発信する。また、全国体育・保健体育ネットワーク研究会の交流を促進する。

2 主催／共催／後援(予定)

- 〔主催〕九州体育・保健体育ネットワーク研究会、北海道・東北ネットワーク研究会
北信越ネットワーク研究会、中国・四国ネットワーク研究会、関東・東海・関西ネットワーク研究会
〔共催〕福岡県体育研究所、鹿屋体育大学、宮崎大学、熊本大学、福岡教育大学（申請中）
〔後援〕佐賀大学、大分県教育委員会、沖縄県教育委員会、鹿児島県教育委員会、熊本県教育委員会
長崎県教育委員会、福岡県教育委員会、宮崎県教育委員会、佐賀県教育委員会（申請中）
〔協力〕台湾師範大学、韓国中央大学

3 期日

令和4年3月5日（土） 10:00～17:00（受付：9:30～）

4 場所

福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）
住所 〒812-0852 福岡市博多区東平尾公園2-1-4 TEL 092-611-1717

5 方式

対面 100名まで 先着順
Web 300名まで 参加可能
※ 新型コロナウイルス感染症の拡大の場合、Webのみでの開催といたします。

6 内容

- 9:30 受付
10:00-11:30 ポスターセッション（発表は、ハイブリッド形式で実施）
テーマ別セッション・ルームでの研究成果、教材等の発表
12:30 開会式
第1部
12:30-13:30 ポストコロナにおける保健体育への期待
関 伸夫（文部科学省教科調査官）
第2部
13:40-15:20 世界はICTをどのように保健体育で進めているのか（Web 国際シンポ）
Ching-Wei, CHANG（台湾師範大学）、Jeong Ae You（韓国中央大学）、
佐藤豊（桐蔭横浜大学）
司会・通訳：本多壮太郎（福岡教育大学）
第3部
15:30-16:30 体育・保健体育のICT活用はどのように進むのか
小学校 中島寿宏（北海道教育大学）
清田美紀（東広島市教育委員会）、宮田幸治（長崎市立上長崎小学校）
中学校 石川泰成（埼玉大学）
岩佐知美（高槻市立阿武野中学校） 後藤真一郎（大分市立上野ヶ丘中学校）
高等学校 高橋修一（日本女子体育大学）
佐藤若（山形県立上山明新館高等学校）、小松陽子（福岡県立福岡魁誠高等学校）
16:30- 事務連絡
16:40- 閉会式
※ 状況によって、WEB開催とします。

6 資料代（研究紀要）

2,000円（学生は、1,000円）

※ Web参加の方は、各自お振込みいただいた後、発送いたします。

※ 九州ネットワークの会費については、2021年度会費未納入者のみ徴収します。

7 参加申し込み

下記アドレスを直接アドレスバーに打ち込み、HPへアクセスし送信ください。

なお、2月25日（金）までにお申し込みください。（携帯からのアクセスも可）
ポスター申し込みもこちらからです。※ポスター締切は、1月31日（月）です！

<https://forms.gle/Jv8C3Wbubxy2e7A49>

申し込み画面にジャンプします。

スマホからの参加

申込はこちらから

問い合わせは、事務局：椀（かこい）<chichicaco@nifs-k.ac.jp>
までお願いします。



8 その他

- ◆ コロナ禍での開催であるため、会場での参加は100名までとします。（先着順）
- ◆ 宿泊については、各自手配をお願いします。（非常に取りにくくなっています。お早目に！！）

9 問合せ／連絡先

事務局：鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系

担当：椀 ちか子（0994-46-4971, chichicaco@nifs-k.ac.jp）

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

TEL/FAX 0994-46-4971

10 会場案内



バス

JR博多駅 バスターミナル14番乗り場から

37, 39, 39-Bのバス・・・約20分

（月隈団地経由）（アクション福岡前下車）

福岡空港 地下鉄4番出口 福岡空港前バス停から37, 38, 39のバス・・・約7分

車

JR博多駅から・・・約20分

都市高速道路利用の場合

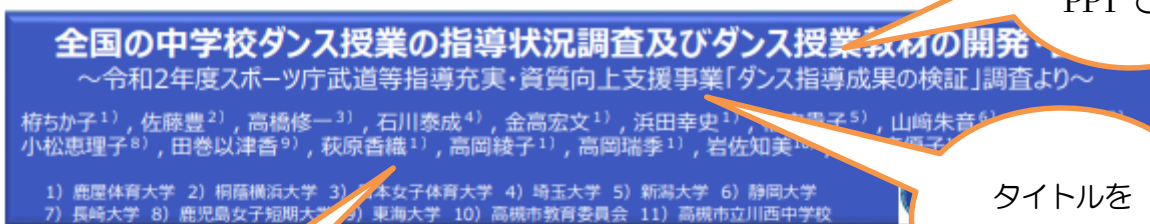
福岡方面から：月隈ランプ出口を降りて・・・約6分

太宰府方面から：金の隈ランプ出口を降りて・・・約9分

ポスター作成イメージ

※ ポスター締切は、1月31日(月)です!
 ポスター原稿を事務局：楳(かこい) chichicaco@nifs-k.ac.jp までお送りください。

エクセル、
ワード、
PPTでA4



タイトルを
お願いします

発表者の
所属、氏名等

1) 鹿屋体育大学 2) 桐蔭横浜大学 3) 日本女子体育大学 4) 埼玉大学 5) 新潟大学 6) 静岡大学
 7) 長崎大学 8) 鹿児島女子短期大学 9) 東海大学 10) 高槻市教育委員会 11) 高槻市立川西中学校

<背景及び目的>
 令和元年度のダンス授業の指導状況調査では、中学校の保健体育科教員の多くが、ダンス授業の指導内容や指導方法を
 実施し、ダンス指導の基となる指導方法や教材について学ぶ環境や情報提供ツールの整備が必要であることが、
 多角的な観点から指導の成果と課題を検証すると共に、「知識」と「技能」を関連付けた指導実践及び
 解決策を検討した。また、本調査を行う
 承認を得た。

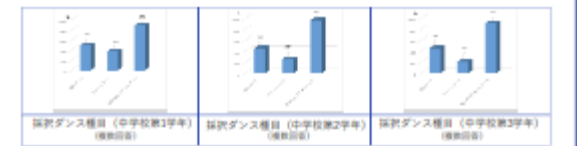
<方法②>
 ダンスの技能の要素をまとめた教材及び学習指導要領に基づいた単
 元計画例を作成し、具体的な指導に関する動画素材と共にホームペ
 ージ上で公開した。
 それらの教材や指導法等を基に、教員対象の研修会や各中学校で実
 際にダンス授業を行い、成果と課題を検証した。



中学校でダンス領域が完全必修となっており、約8年となるが、依然として、ダンスを
 踊ること自体に苦手意識を持っている教員が多く、ダンス授業の指導に対する不安
 も8割を超える教員が「ある」と答えていた。その指導に不安を感じる理由も
 多岐に渡り、自由記述においても上記の項目に関連した回答が非常に多く、未だ
 中学校現場の教員の不安は解消されていない現状が明らかとなった。



平成29年告示の学習指導要領解説の例示に対応させた、中学校段階での技能評価観
 点構造図を作成する必要があると考えた、ワーキンググループや有識者会議のメン
 バーを中心に議論を重ね、中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年別の「技能
 評価観点構造図」を完成させた。



授業で採択されているダンス種目については、いずれの学年においても、「現代
 的なリズムのダンス」が最も多く、続いて「創作ダンス」「フォークダンス」の
 順となった。自由記述においては、ダンスの種類により指導課題が異なることが
 示唆され、特に「創作ダンス」の内容や、「現代的なリズムのダンス」の技能・
 内容について多くの課題が挙げられていた。



平成29年告示の学習指導要領を基に、中学校第1学年及び第2学年において、各8時
 間という授業時間設定で、第1学年時に「現代的なリズムのダンス」、第2学年で
 「創作ダンス」を実施すると仮定し、単元構造図を簡易化したものを作成し、授業
 づくりのベースとして示した。その後、作成した単元計画をもとに、それぞれの時
 間に実施する具体的な指導方法や教材を検討した。



ダンス授業のクラス編成は、男女共習での実施が60%が留まり、未だ男女共習授業
 に対して抵抗がある教員が存在する可能性が示唆された。また、視聴覚教材を活用
 して授業している教員が多く、自由記述においても動画教材についての要望が多数
 見られた。しかしながら、「振付動画」を希望する教員も多く、視聴覚教材の活用
 頻度が高いことと何らかの関連性がある可能性が考えられた。

教員対象ダンス研修会における実践	中学校における実践
研修後のアンケートの結果、「技能評価観点構造図」については、全教員が、「知識」(わかる)と「技能」(できる)を繋ぐ、ダンスの指導や評価をする上で役立つと回答し、一定の評価を得られたと考えられた。ホームページの動画教材の提供についても好評であり、研修で行った内容の復習としても活用できるようにすることも有効である可能性が示唆された。	中学校において実施率の高い「現代的なリズムのダンス」について、本事業で開発した指導方法・教材を中学校に提供した。学習指導要領をしっかりと読み込み、理解することが重要ではあるが、ダンスを専門としない教員にとっては、イメージが容易でない表現もあるため、今回のように動画教材を作成し、提供することは現職教員へのサポート方法として通じていたのではないかと考えられた。



「創作ダンス」は、「即興的に表現する」の実施率が低く、学年を問わず、「創作ダンス」の指導における重要課題であることが示唆された。「現代的なリズムのダンス」についても、「振付のあるダンスを踊る」活動が多く実施され、「リズムに乗り自由に踊る」は最も少ない結果となった。教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材を教員に提供する必要性が示唆された。

<本事業の成果> 全国の中学校でのダンス授業の実態について、アンケート調査から把握することができた、ダンス授業の実態に關し、未だ現職教員の不安が大きいこと、また、「創作ダンス」や「現代的なリズムのダンス」の指導について、指導内容に偏りが多かったこと、また、教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材を教員に提供する必要性が示唆されたこと、また、WEB上でダンス授業の教材や指導法について動画素材を提供することや、学習指導要領の例を示すことは、ダンス授業のイメージが掴みやすく、その指導法や教材をベースとして、それぞれの学

作成資料、指導案等
の提供も可能です